

2 / Priority Doc
1. H. H. H. H. H.
4/19/01

Docket No.: 1046.1242/JDH

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:)
)
Mamiko KURAMOCHI)
) Group Art Unit: Unassigned
Serial No.: To be assigned)
) Examiner: Unassigned
Filed: February 16, 2001)
)
For: **DATA PROCESSING SYSTEM**)
 AND DATA PROCESSING)
 METHOD)



SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN
APPLICATION IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, the applicants submit herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 2000-256174
Filed: August 25, 2000.

It is respectfully requested that the applicants be given the benefit of the foreign filing date as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

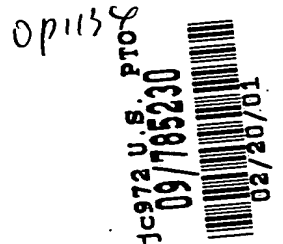
Date: February 16, 2001

By: _____

James D. Halsey, Jr.
Registration No. 22,729

700 11th Street, N.W., Ste. 500
Washington, D.C. 20001
(202) 434-1500

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 8月25日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-256174

出 願 人

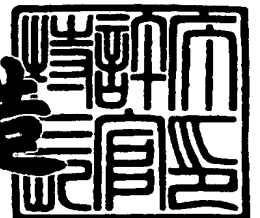
Applicant (s):

富士通株式会社

2000年11月10日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3093384

【書類名】 特許願

【整理番号】 0050558

【提出日】 平成12年 8月25日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 9/00

【発明の名称】 データ処理装置及びコンピュータ可読媒体

【請求項の数】 5

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号富士通株式会社内

 【氏名】 倉持 真美子

【特許出願人】

 【識別番号】 000005223

 【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100089244

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 遠山 勉

【選任した代理人】

 【識別番号】 100090516

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 松倉 秀実

 【連絡先】 03-3669-6571

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 012092

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705606

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ処理装置及びコンピュータ可読媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 固定フォーマットを有する少なくとも 1 つのフォーマットファイルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも 1 つのデータファイルとを表示させる表示制御手段と；

前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させる指定制御手段と；

前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定する設定手段と；

を備えるデータ処理装置。

【請求項 2】 前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれかが複数であるとき、

前記設定手段は、前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定し、複数のファイルを一度に作成する

請求項 1 記載のデータ処理装置。

【請求項 3】 指定された前記フォーマットファイル及び前記データファイルのそれぞれのファイル形式を判別する判別手段を

更に備える請求項 1 または 2 記載のデータ処理装置。

【請求項 4】 前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定した内容を前記指定操作に応じて印刷させる印刷制御手段を

更に備える請求項 1 または 2 記載のデータ処理装置。

【請求項 5】 固定フォーマットを有する少なくとも 1 つのフォーマットファイルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも 1 つのデータファイルとを表示させ；

前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させ；

前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定させる
プログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は画面上の操作において固定フォーマットに必要事項データを簡易に入力することを可能にするデータ処理装置及びその手法に関する。

【0002】

【従来の技術】

パーソナルコンピュータなどのデータ処理装置において、操作者は、指定された固定フォーマットに必要事項データ（以下、単にデータと記載することもある）を入力する場合、固定フォーマットの各項目に対して、キーボードから1つひとつ必要事項データの書込みを行っている。

【0003】

したがって、「固定フォーマットに必要事項データを入力する」という作業が度々発生すれば、操作者はその都度、必要事項データを指定箇所に何度もキーボードより入力しなければならない。

【0004】

通常、固定フォーマットに必要事項データを入力する場合、そのデータの種別は限られていることが殆どである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

従来の固定フォーマットへの必要事項データの入力手法では、伝票などの固定フォーマットに入力するデータがほぼ何種類かに限られているにも関わらず、操作者は必要に応じてデータを1つひとつキーボードから入力しなければならない。

【0006】

これは、操作者にとって、多大の入力時間及び手間を要し、データ入力効率が

非常に悪い。また、入力回数の増加に比例して、入力ミスの発生が増大することを免れない。

【 0 0 0 7 】

本発明の課題は、画面上の操作において固定フォーマットに必要事項データを簡易に入力することを可能にするデータ処理装置及びその手法を提供することにある。

【 0 0 0 8 】

本発明の他の課題は、固定フォーマットへの必要事項データの入力ミスの発生を抑制することが可能なデータ処理装置及びその手法を提供することにある。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明の第 1 のデータ処理装置は、固定フォーマットを有する少なくとも 1 つのフォーマットファイルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも 1 つのデータファイルとを表示させる表示制御手段と；

前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させる指定制御手段と；

前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定する設定手段とを備える。

【 0 0 1 0 】

本発明の第 2 のデータ処理装置は、前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれかが複数であるとき、

前記設定手段は、前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定し、複数のファイルを一度に作成する。

【 0 0 1 1 】

本発明の第 3 のデータ処理装置は、指定された前記フォーマットファイル及び前記データファイルのそれぞれのファイル形式を判別する判別手段を更に備える。

【 0 0 1 2 】

本発明の第 4 のデータ処理装置は、前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定した内容を前記指定操作に応じて印刷させる印刷制御手段を更に備える。

【 0 0 1 3 】

本発明のプログラムを記録したコンピュータ可読媒体は、固定フォーマットを有する少なくとも 1 つのフォーマットファイルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも 1 つのデータファイルとを表示させ；

前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させ；

前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定させる。

【 0 0 1 4 】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【 0 0 1 5 】

〔第 1 の実施の形態〕

〔データ処理装置の構成〕

本発明の第 1 の実施の形態におけるデータ処理装置の構成を示す図 1 を参照すると、このデータ処理装置 1 は、通常のパーソナルコンピュータなどのコンピュータ端末装置と同様に、互いに内部バス 1 0 で接続されている制御装置（CPU）1 1、記憶装置 1 2 及び記録媒体 1 3、主記憶装置（RAM）1 4、入力装置 1 5、表示装置 1 6、印刷装置 1 7 及び通信インタフェース装置 1 8 を有する。

【 0 0 1 6 】

CPU 1 1 は既存の各種アプリケーションプログラム及び後に詳述するデータ入力処理プログラムを記憶装置 1 2 から読み出して実行する。RAM 1 4 は CPU 1 1 の主記憶エリアとして使用される。

【 0 0 1 7 】

ハードディスク装置などの記憶装置 1 2 は CPU 1 1 により実行されるプログ

ラム及びデータなどが予め記憶されている記録媒体 1 3 を有する。上記データ入力処理プログラムは記録媒体 1 3 に記憶されている。この記録媒体 1 3 は記憶装置 1 2 に固定的に設けるか、着脱自在に装着する形態を採ることができる。

【 0 0 1 8 】

入力装置 1 5 はキーボード及びマウスによって構成されている。入力装置 1 5 は、CPU 1 1 が特定のプログラムを実行するためのコマンドを入力するためなどに用いる。表示装置 1 6 はディスプレイであり、印刷装置 1 7 と同様に、CPU 1 1 の処理対象情報または処理結果を可視表示して操作者に示す。

【 0 0 1 9 】

通信インタフェース装置 1 8 はこのデータ処理装置 1 を図示省略の通信ネットワークに接続し、CPU 1 1 からの指示に基づいて、他のデータ処理装置またはサーバなどとの間で各種情報の送受信を行う。

【 0 0 2 0 】

上述したデータ処理装置 1 の構成は、後に詳述する第 2 及び第 3 の実施の形態においても同一である。

【 0 0 2 1 】

〔データ処理装置の動作〕

次に、図 1，図 2，図 3 及び図 4 を併せ参照して、本発明の第 1 の実施の形態のデータ処理装置 1 におけるデータ入力処理例を説明する。

【 0 0 2 2 】

このデータ処理装置 1 において、CPU 1 1 は図 3 に処理手順を示すデータ入力処理プログラム及び図 4 に処理手順を示す編集処理サブルーチンを含むアプリケーションプログラム、具体的には「エクスプローラ」などを記憶装置 1 2 から読み出して実行する。この処理実行において、RAM 1 4 は CPU 1 1 の主記憶エリアとして使用される。

【 0 0 2 3 】

このデータ処理装置 1 においては、フォルダ（フォルダ名：発送伝票）の階層構造と、フォルダの中のファイル（F I L E）とを表示装置 1 6 に同時に表示した状態で、まずフォーマットファイル名 1 6 0 またはデータファイル名 1 7 0 を

入力装置 15 から選択させ、操作者にいずれのファイルを開く操作をさせることなく、編集機能やマウス操作によるドラッグアンドドロップ機能によりファイル指定を行って、データ入力することを可能にしている。

【0024】

また、データ入力後のフォーマットファイル 30 を閉じた状態で、印刷装置 17 による印刷を可能にしている。なお、この例では、フォルダ階層構造中に 1 つのフォーマットファイル名 160 と複数のデータファイル名 170 とが含まれている。

【0025】

詳述すると、CPU 11 はデータ処理装置内部に格納されているフォルダのファイル名一覧を表示装置 16 に表示して、必要事項データが格納されているデータファイル名 170 を操作者に選択させる（図 3 中、ステップ（S）301，S302）。

【0026】

操作者は、表示装置 16 の画面において、マウスクリックにより選択したデータファイル名 170 を固定フォーマットが格納されているフォーマットファイル名 160 の表示箇所にドラッグする（S303）。

【0027】

これにより、CPU 11 には、データファイル名「〇〇会社. dat」170 及びフォーマットファイル名「FORMAT. fm」160 が入力される。この時、CPU 11 は入力されたこれらファイル名 160，170 のファイル形式（ファイル種別）を判別する必要がある。この例では、CPU 11 はファイルの拡張子に基づいてファイル形式を判別する。つまり、拡張子「fm」はフォーマットファイル 30 であり、拡張子「dat」20 はデータファイルであると、判別することができる（S304）。

【0028】

なお、CPU 11 はファイル名の文字（例えば、付加された「F△△」及び「D□□」）に基づくファイル形式判別、またはファイル選択の順序に基づく（例えば、最初に選択したファイルをフォーマットファイルとみなす）ファイル形式

判別手法などを採ることが可能である。

【0029】

次に、CPU11はデータファイル20中の必要事項データを区切情報「,」の手前まで読み込み(S305)、フォーマットファイル30の所定の項目欄(ここでは、最初の項目欄「会社名」)31に対応するデータ入力欄32に読み込みデータ「AAAA」を設定(書き込み)する(S306)。

【0030】

CPU11はデータファイル20の区切情報「,」の後ろにデータが存在するか否かを調べる(S307)。データが存在しない場合は、図4を参照して後に説明する編集処理に移行する。データが存在する場合は、CPU11はフォーマットファイル30の次のデータ入力欄「住所」32を対象として、処理S305に戻る(S308)。

【0031】

上記処理S305からS308をデータファイル20にデータが存在しなくなるまで繰り返すことにより、フォーマットファイル30の各データ入力欄32にそれぞれ対応データが設定される。なお、この例では、フォーマットファイル30の項目欄「ナンバー」31に対応するデータがデータファイル20には存在しない。

【0032】

これにより、データファイル20及びフォーマットファイル30の双方を閉じた状態で、固定フォーマットへの必要事項データの入力が、データ入力処理プログラムを実行するCPU11によって自動的に行われる。

【0033】

上記データ入力処理後、フォーマットファイル名160の選択のみで編集機能またはメニュー画面操作により、印刷、表示、または保存などの編集処理を可能とする。この編集処理の手順S401からS411を図4に示している。ここで、データ入力処理後の印刷はフォーマットファイル30を閉じた状態で行うことができる。

【0034】

上述したデータ入力処理においては、データの区切情報としてカンマを配置して、データを羅列する形態のデータファイル 2 0 を採用した。この形態のデータファイル 2 0 は、選択後にフォーマットファイル 3 0 にドラッグされると、フォーマットファイル 3 0 のデータ入力欄 3 2 にデータファイル 2 0 のデータが先頭から順番に自動入力される。

【 0 0 3 5 】

この形態のデータファイル 2 0 に代替して、図 5 に示すように、項目毎にデータに対応付けて表形式で配置したデータファイル 2 1 を採用することも可能である。この場合、データファイル 2 1 が選択されてフォーマットファイル 3 0 にドラッグされると、自動検索機能によりフォーマットファイル 3 0 に必要な項目のデータのみが、データファイル 2 1 からフォーマットファイル 3 0 に複写される。

【 0 0 3 6 】

〔第 2 の実施の形態〕

〔データ処理装置の動作〕

次に、図 1，図 4，図 6 及び図 7 を併せ参照して、本発明の第 2 の実施の形態のデータ処理装置 1 におけるデータ入力処理例を説明する。

【 0 0 3 7 】

このデータ処理装置 1 において、CPU 1 1 は図 7 に処理手順を示すデータ入力処理プログラム及び図 4 に処理手順を示す編集処理サブルーチンを含むアプリケーションプログラム、具体的には「エクスプローラ」などを記憶装置 1 2 から読み出して実行する。この処理実行において、RAM 1 4 は CPU 1 1 の主記憶エリアとして使用される。

【 0 0 3 8 】

このデータ処理装置 1 においては、フォルダ（フォルダ名：フォーマット、データ）の階層構造と、フォルダの中のファイルとを表示装置 1 6 に同時に表示した状態で、まずフォーマットファイル名 1 6 1 またはデータファイル名 1 7 1 を入力装置 1 5 から選択させ、これらのファイルを閉じたまま、ドラッグアンドドロップ機能及びフォームオーバーレイ機能により固定フォーマットに必要事項デ

ータを入力した新規ファイル 4 0 を作成することを可能にする。

【 0 0 3 9 】

また、データ入力後の新規ファイル、つまりフォーマットファイル 4 0 を閉じた状態で、印刷装置 1 7 による印刷を可能にしている。なお、この例では、フォルダ階層構造中に複数のフォーマットファイル名 1 6 1, 1 6 2 と複数のデータファイル名 1 7 1, 1 7 2 とが含まれている。

【 0 0 4 0 】

詳述すると、CPU 1 1 はデータ処理装置内部に格納されているフォルダのファイル名一覧を表示装置 1 6 に表示して、操作者に、表示装置 1 6 の画面において、必要事項データが格納されているデータファイル名 1 7 1 を選択させ、選択したデータファイル名 1 7 1 を固定フォーマットが格納されているフォーマットファイル名 1 6 1 の表示箇所にドラッグ選択させる（図 7 中、ステップ（S）7 0 1, S 7 0 2）。

【 0 0 4 1 】

また、操作者は、これらのファイルを開くことなく、編集機能において「ファイルを開かずに処理」を選択する（S 7 0 3）。この結果、CPU 1 1 は新しいファイル 4 0 を RAM 1 4 上に開く。

【 0 0 4 2 】

これにより、CPU 1 1 には、データファイル名「〇〇社. d a t」1 7 1 及びフォーマットファイル名「FORMAT 1. f m」1 6 1 が入力される。この時、CPU 1 1 は入力されたこれらファイル名 1 6 1, 1 7 1 のファイル形式を判別する必要がある。

【 0 0 4 3 】

この例では、CPU 1 1 はファイルの拡張子に基づいてファイル形式を判別する。つまり、拡張子「f m」はフォーマットファイルであり、拡張子「d a t」はデータファイルであると、判別することができる（S 7 0 4）。なお、CPU 1 1 はファイル名の文字に基づくファイル形式判別、またはファイル選択の順序に基づくファイル形式判別手法などを採ることが可能である。

【 0 0 4 4 】

次に、CPU 11は、フォームオーバーレイ機能により、フォーマットファイル名161対応のフォーマットファイルに格納されている固定フォーマットを新規ファイル40に複写する。また、CPU 11は、フォームオーバーレイ機能により、データファイル名171対応のデータファイルに格納されている必要事項データを新規ファイル40に複写する。この時、CPU 11はフォーマットファイル30の所定の項目欄31に対応するデータ入力欄32に各データを設定する(S705)。

【0045】

これにより、データファイル及びフォーマットファイルの双方を閉じた状態で、固定フォーマットへの必要事項データの入力が、データ入力処理プログラムを実行するCPU 11によって自動的に行われる。

【0046】

上記データ入力処理後、フォーマットファイル名161の選択のみで編集機能またはメニュー画面操作により、印刷、表示、または保存などの編集処理(図4参照)を可能とする。ここで、データ入力処理後の印刷は新規作成のファイル40を閉じた状態で行うことができる。

【0047】

上述したデータ入力処理においては、図2に示すように、データを羅列した形態のデータファイル20、または図5に示すように、項目毎にデータを対応付けて表形式で配置したデータファイル21を採用することが可能である。

【0048】

〔第3の実施の形態〕

〔データ処理装置の動作〕

次に、図1、図4、図8及び図9を併せ参照して、本発明の第3の実施の形態のデータ処理装置1におけるデータ入力処理例を説明する。

【0049】

このデータ処理装置1において、CPU 11は図9に処理手順を示すデータ入力処理プログラム及び図4に処理手順を示す編集処理サブルーチンを含むアプリケーションプログラム、具体的には「エクスプローラ」などを記憶装置12から

読み出して実行する。この処理実行において、RAM 1 4 はCPU 1 1 の主記憶エリアとして使用される。

【0 0 5 0】

このデータ処理装置 1 においては、フォルダ（フォルダ名：フォーマット、データ）の階層構造と、フォルダの中のファイルとを表示装置 1 6 に同時に表示した状態で、まずフォーマットファイル名 1 6 1, 1 6 2 の少なくとも 1 つまたはデータファイル名 1 7 1, 1 7 2 の少なくとも 1 つを入力装置 1 5 から選択させ、これらのファイルを閉じたまま、ドラッグアンドドロップ機能及びフォームオーバーレイ機能などにより、固定フォーマットに必要事項データを入力して複数のファイルを一度に作成することを可能にする。

【0 0 5 1】

また、データ入力後のフォーマットファイル 3 0 または新規ファイル 4 0 を閉じた状態で、印刷装置 1 7 による印刷を可能にしている。なお、この例では、フォルダ階層構造中に複数のフォーマットファイル名 1 6 1, 1 6 2 と複数のデータファイル名 1 7 1, 1 7 2 とが含まれている。

【0 0 5 2】

詳述すると、CPU 1 1 はデータ処理装置内部に格納されているフォルダのファイル名一覧を表示装置 1 6 に表示して、必要事項データが格納されているデータファイル名 1 7 1, 1 7 2 または固定フォーマットが格納されているフォーマットファイル名 1 6 1, 1 6 2 を操作者を選択させる（図 9 中、ステップ（S）9 0 1, S 9 0 2）。

【0 0 5 3】

この時、操作者は、表示装置 1 6 の画面において、データファイル名 1 7 1, 1 7 2 またはフォーマットファイル名 1 6 1, 1 6 2 の表示箇所を選択する。図 8（A）には、複数のデータファイル名 1 7 1, 1 7 2 が選択された場合を示し、図 8（B）には、複数のフォーマットファイル名 1 6 1, 1 6 2 が選択された場合を示している。

【0 0 5 4】

これにより、CPU 1 1 には、データファイル名「〇〇社. d a t」1 7 1 及

びデータファイル名「〇〇商社. d a t」172、またはフォーマットファイル名「FORMAT1. f m」161及びフォーマットファイル名「FORMAT2. f m」162が入力される。

【0055】

この時、CPU11は入力されたこれらファイル名171、172または161、162のファイル形式を判別する必要がある。この例では、CPU11はファイルの拡張子に基づいてファイル形式を判別する。つまり、拡張子「f m」はフォーマットファイルであり、拡張子「d a t」はデータファイルであると、判別することができる（S903）。

【0056】

なお、CPU11はファイル名の文字に基づくファイル形式判別、またはファイル選択の順序に基づくファイル形式判別手法などを採ることが可能である。また、CPU11は入力されたこれらファイル名171、172または161、162をRAM14に格納する（S904）。

【0057】

次に、操作者は、表示装置16の画面において、処理S902で選択したデータファイル名171、172またはフォーマットファイル名161、162を他方のファイル名の1つにドラッグする（S905）。

【0058】

CPU11はドラッグ先のファイル名のファイル形式を拡張子に基づいて判別する（S906）。また、CPU11はドラッグ先のファイル名をRAM14に格納する（S907）。

【0059】

次に、CPU11は、複数のデータファイル名171、172が選択されてフォーマットファイル名161にドラッグされた場合には、上述したフォームオーバーレイ機能などにより、1つのフォーマットファイル30の所定の項目欄31に対応するデータ入力欄32に複数のデータファイルの各データをそれぞれ設定し、一度に複数のファイルを作成する（S908）。

【0060】

また、CPU 11は、複数のフォーマットファイル名161、162が選択されてデータファイル名171にドラッグされた場合には、上述したフォームオーバーレイ機能などにより、複数のフォーマットファイル30のそれぞれの所定の項目欄31に対応するデータ入力欄32に1つのデータファイルの各データを設定し、一度に複数のファイルを作成する（S908）。

【0061】

これにより、データファイル及びフォーマットファイルの双方を閉じた状態で、固定フォーマットへの必要事項データの入力が、データ入力処理プログラムを実行するCPU 11によって自動的に行われる。

【0062】

上記データ入力処理後、フォーマットファイル名の選択のみで編集機能またはメニュー画面操作により、印刷、表示、または保存などの編集処理（図4参照）を可能とする。ここで、データ入力処理後の印刷はフォーマットファイル30または新規作成のファイル40を閉じた状態で行うことができる。

【0063】

上述したデータ入力処理においては、図2に示すように、データを羅列した形態のデータファイル20、または図5に示すように、項目毎にデータを対応付けて表形式で配置したデータファイル21を採用することが可能である。

【0064】

〔変形例〕

上述した各実施の形態において、フォーマットファイル及びデータファイルを表示オブジェクト（アイコン）で表示してもよい。

【0065】

また、上述した各実施の形態における処理はコンピュータで実行可能なプログラムとして提供され、CD-ROMやフロッピーディスクなどの記録媒体、さらには通信回線を経て提供可能である。

【0066】

上述した各実施の形態を含む本発明においては、「指定」は「選択」及び「ドラッグ」を含む。

【0067】

〔付記〕

（付記1） 固定フォーマットを有する少なくとも1つのフォーマットファイルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも1つのデータファイルとを表示させる表示制御手段と；

前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させる指定制御手段と；

前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定する設定手段と；

を備えるデータ処理装置。

【0068】

（付記2） 前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれかが複数であるとき、

前記設定手段は、前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定し、複数のファイルを一度に作成する

付記1記載のデータ処理装置。

【0069】

（付記3） 前記設定手段は、前記指定操作に応じて、フォームオーバーレイ機能により前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定する

付記1または2記載のデータ処理装置。

【0070】

（付記4） 指定された前記フォーマットファイル及び前記データファイルのそれぞれのファイル形式を判別する判別手段を

更に備える付記1または2記載のデータ処理装置。

【0071】

（付記5） 前記判別手段は、拡張子、ファイル名、及びファイル選択順序のいずれかに基づいて、前記フォーマットファイル及び前記データファイルのファ

イル形式を判別する

付記 4 記載のデータ処理装置。

【 0 0 7 2 】

(付記 6) 前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定した内容を前記指定操作に応じて印刷させる印刷制御手段を

更に備える付記 1 または 2 記載のデータ処理装置。

【 0 0 7 3 】

(付記 7) 前記指定制御手段は、ドラッグアンドドロップ機能により、前記フォーマットファイル及び前記データファイルの指定を行わせる

付記 1 または 2 記載のデータ処理装置。

【 0 0 7 4 】

(付記 8) 前記設定手段は、表示オブジェクトで示された前記フォーマットファイル及び前記データファイルを指定する前記指定操作に応じて、前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定する

付記 1 または 2 記載のデータ処理装置。

【 0 0 7 5 】

(付記 9) 固定フォーマットを有する少なくとも 1 つのフォーマットファイルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも 1 つのデータファイルとを表示させるステップと；

前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させるステップと；

前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定するステップと；

を備えるデータ処理方法。

【 0 0 7 6 】

(付記 1 0) 前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれかが複数であるとき、前記指定操作に応じて、前記データファイルの前記事項デー

タを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定し、複数のファイルを一度に作成するステップを

更に備える付記 9 記載のデータ処理方法。

【 0 0 7 7 】

(付記 1 1) 前記指定操作に応じて、フォームオーバーレイ機能により前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定するステップを

更に備える付記 9 または 1 0 記載のデータ処理方法。

【 0 0 7 8 】

(付記 1 2) 指定された前記フォーマットファイル及び前記データファイルのそれぞれのファイル形式を判別するステップを

更に備える付記 9 または 1 0 記載のデータ処理方法。

【 0 0 7 9 】

(付記 1 3) 前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定した内容を前記指定操作に応じて印刷させるステップを

更に備える付記 9 または 1 0 記載のデータ処理方法。

【 0 0 8 0 】

(付記 1 4) ドラッグアンドドロップ機能により、前記フォーマットファイル及び前記データファイルの指定を行わせるステップを

更に備える付記 9 または 1 0 記載のデータ処理方法。

【 0 0 8 1 】

(付記 1 5) 表示オブジェクトで示された前記フォーマットファイル及び前記データファイルを指定する前記指定操作に応じて、前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定するステップを更に備える

付記 1 または 2 記載のデータ処理方法。

【 0 0 8 2 】

(付記 1 6) 固定フォーマットを有する少なくとも 1 つのフォーマットファ

イルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも 1 つのデータファイルとを表示させ；

前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させ；

前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定させる
プログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【 0 0 8 3 】

(付記 1 7) 前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれかが複数であるとき、前記指定操作に応じて、前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定させ、複数のファイルを一度に作成させる

付記 1 6 記載のプログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【 0 0 8 4 】

(付記 1 8) 前記指定操作に応じて、フォームオーバーレイ機能により前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定させる

付記 1 6 または 1 7 記載のプログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【 0 0 8 5 】

(付記 1 9) 指定された前記フォーマットファイル及び前記データファイルのそれぞれのファイル形式を判別させる

付記 1 6 または 1 7 記載のプログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【 0 0 8 6 】

(付記 2 0) 前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定した内容を前記指定操作に応じて印刷させる

付記 1 6 または 1 7 記載のプログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【 0 0 8 7 】

(付記 2 1) ドラッグアンドドロップ機能により、前記フォーマットファイル及び前記データファイルの指定を行わせる

付記 1 6 または 1 7 記載のプログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【 0 0 8 8 】

(付記 2 2) 表示オブジェクトで示された前記フォーマットファイル及び前記データファイルを指定する前記指定操作に応じて、前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定させる

付記 1 6 または 1 7 記載のプログラムを記録したコンピュータ可読媒体。

【 0 0 8 9 】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、画面上の操作において固定フォーマットに必要事項データ（事項データ）を簡易に入力することができる。

【 0 0 9 0 】

また、本発明によれば、固定フォーマットへの必要事項データの入力ミスの発生を抑制することができる。

【 0 0 9 1 】

つまり、本発明によれば、簡単に固定フォーマットに必要事項データを入力することができ、ファイルを閉じた状態で印刷を可能にするので、作業時間を大幅に短縮できる。さらに、固定フォーマットに必要事項データを一字一句入力するのではないので、入力ミスが抑制でき、正確な資料がワンタッチ感覚で作成できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の第 1 の実施の形態のデータ処理装置の構成を示すブロック図。

【図 2】 第 1 の実施の形態のデータ入力処理を説明するための図。

【図 3】 第 1 の実施の形態のデータ入力処理手順を示すフローチャート。

【図 4】 第 1 の実施の形態の編集処理手順を示すフローチャート。

【図 5】 表形式のデータファイルの一例を示す図。

【図 6】 第 2 の実施の形態のデータ入力処理を説明するための図。

【図 7】 第 2 の実施の形態のデータ入力処理手順を示すフローチャート。

【図 8】 第 3 の実施の形態のデータ入力処理を説明するための図。

【図 9】 第 3 の実施の形態のデータ入力処理手順を示すフローチャート。

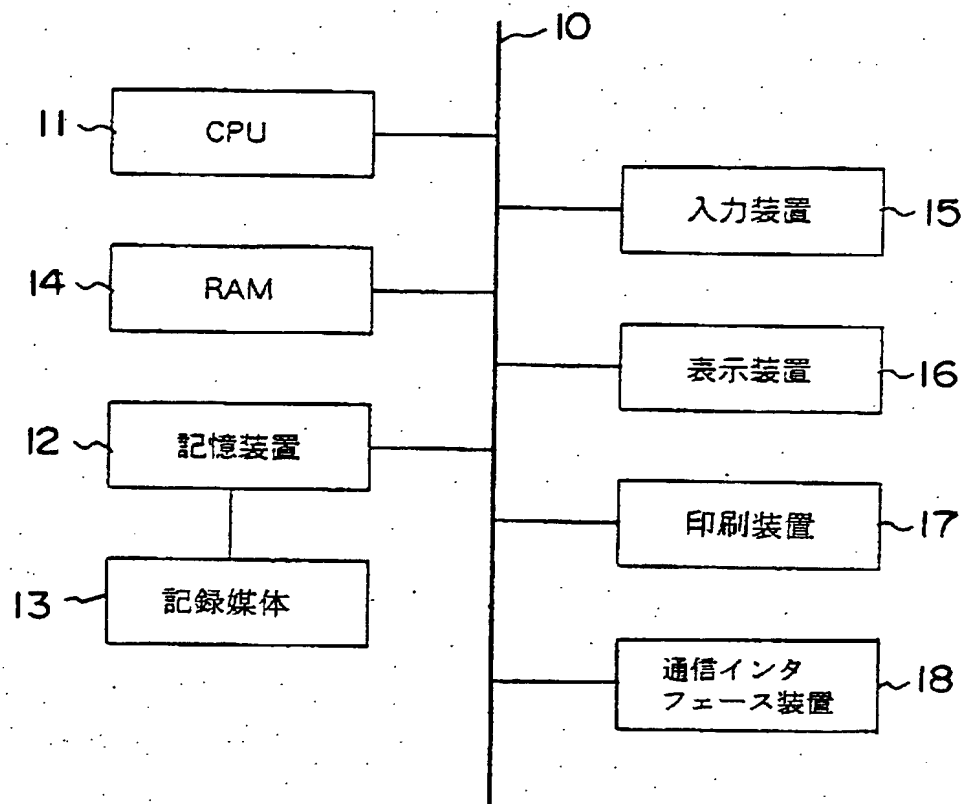
【符号の説明】

- 1 データ処理装置
- 1 1 制御装置 (C P U)
- 1 2 記憶装置
- 1 3 記録媒体
- 1 4 主記憶装置 (R A M)
- 1 5 入力装置
- 1 6 表示装置
- 1 7 印刷装置
- 2 0, 2 1 データファイル
- 3 0 フォーマットファイル
- 1 6 0, 1 6 1, 1 6 2 フォーマットファイル名
- 1 7 0, 1 7 1, 1 7 2 データファイル名

【書類名】 図面

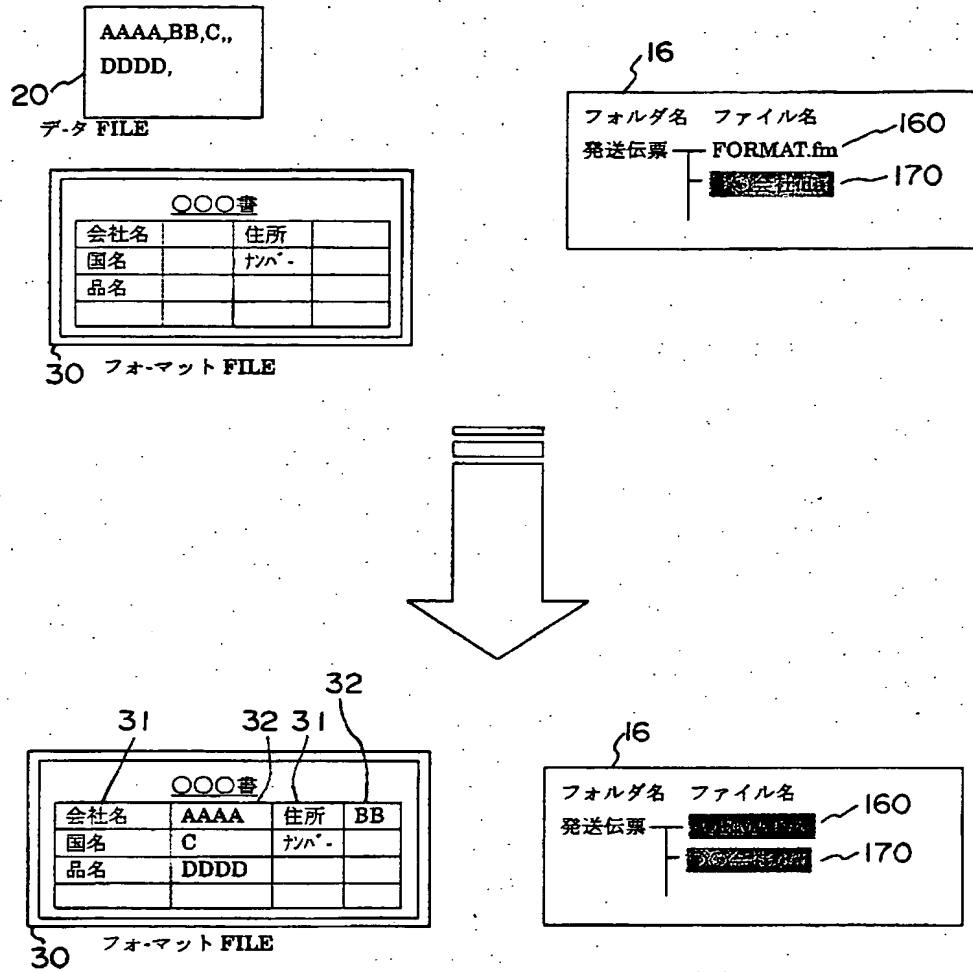
【図1】

本発明の第1の実施の形態のデータ
処理装置の構成を示すブロック図



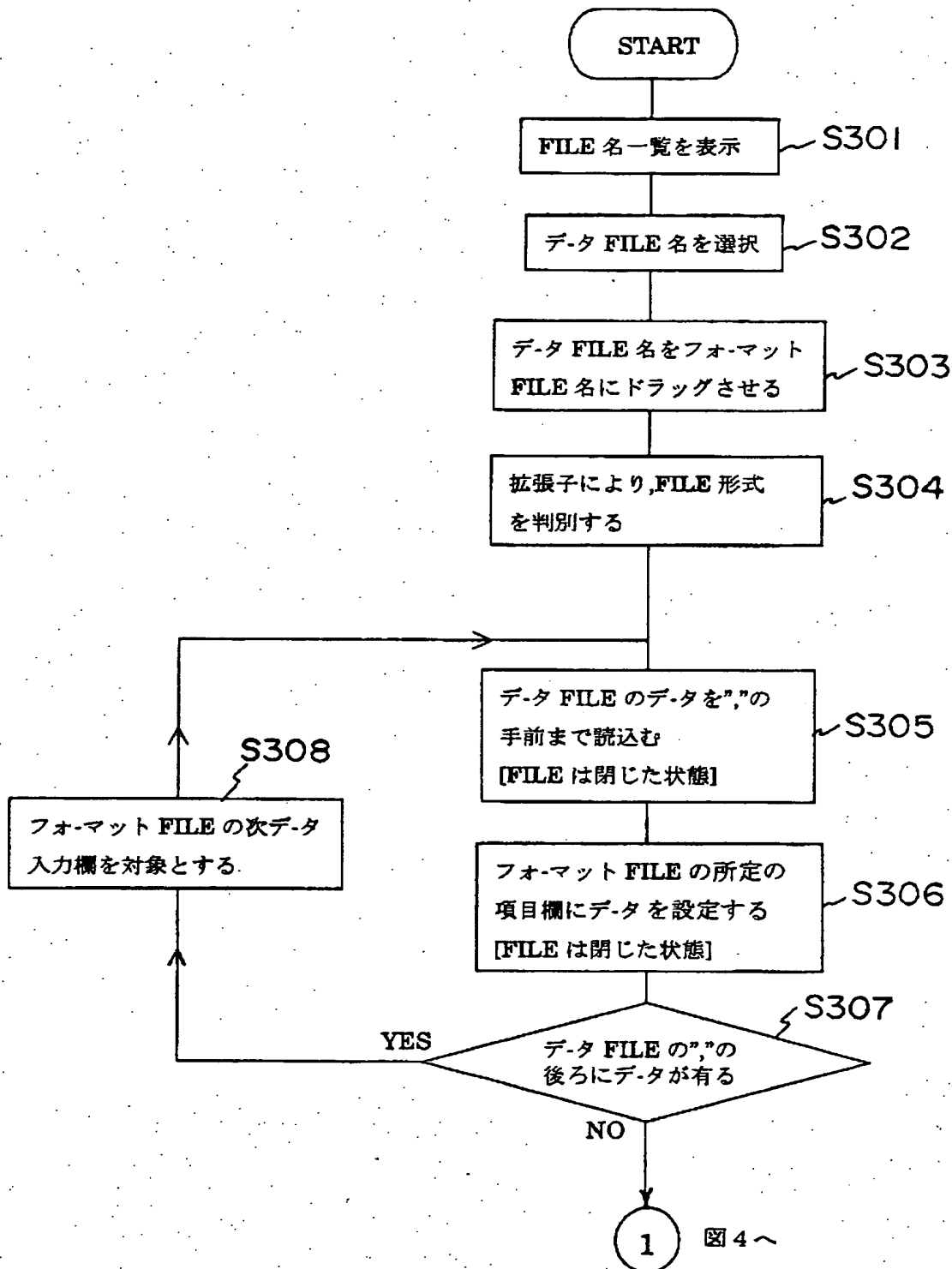
【図 2】

第 1 の実施の形態のデータ入力処理を説明するための図



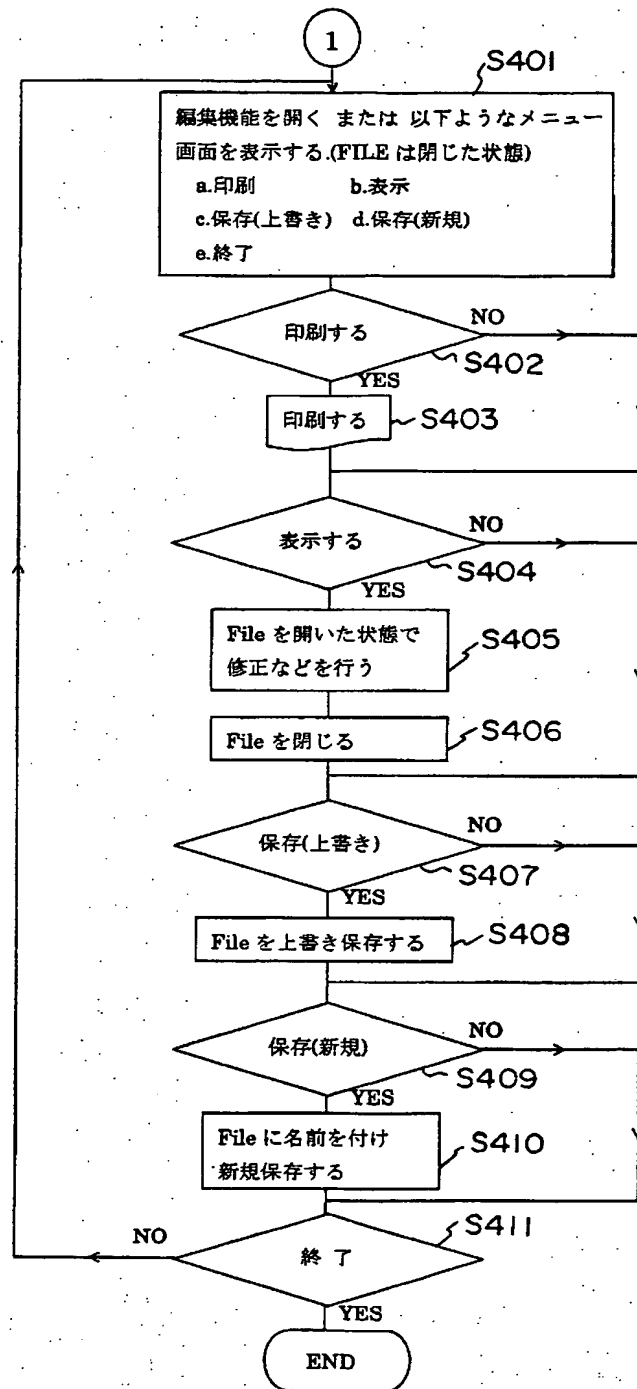
【図 3】

第 1 の実施の形態のデータ入力処理手順を示すフローチャート



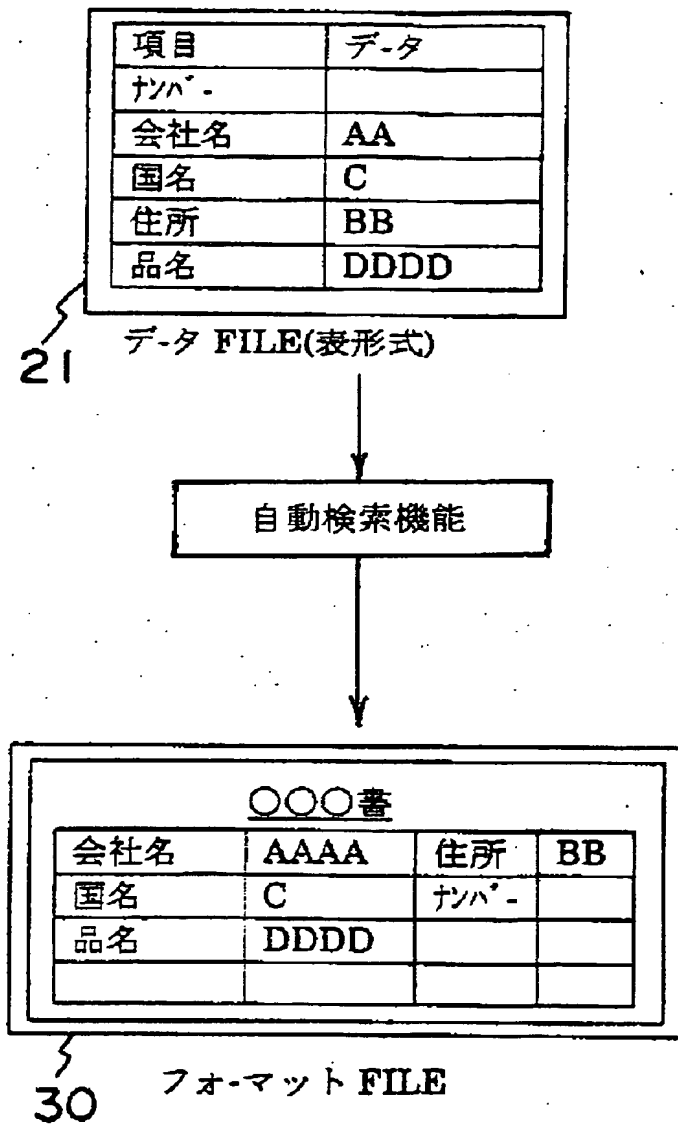
【図 4】

第 1 の実施の形態の編集処理手順を示すフローチャート



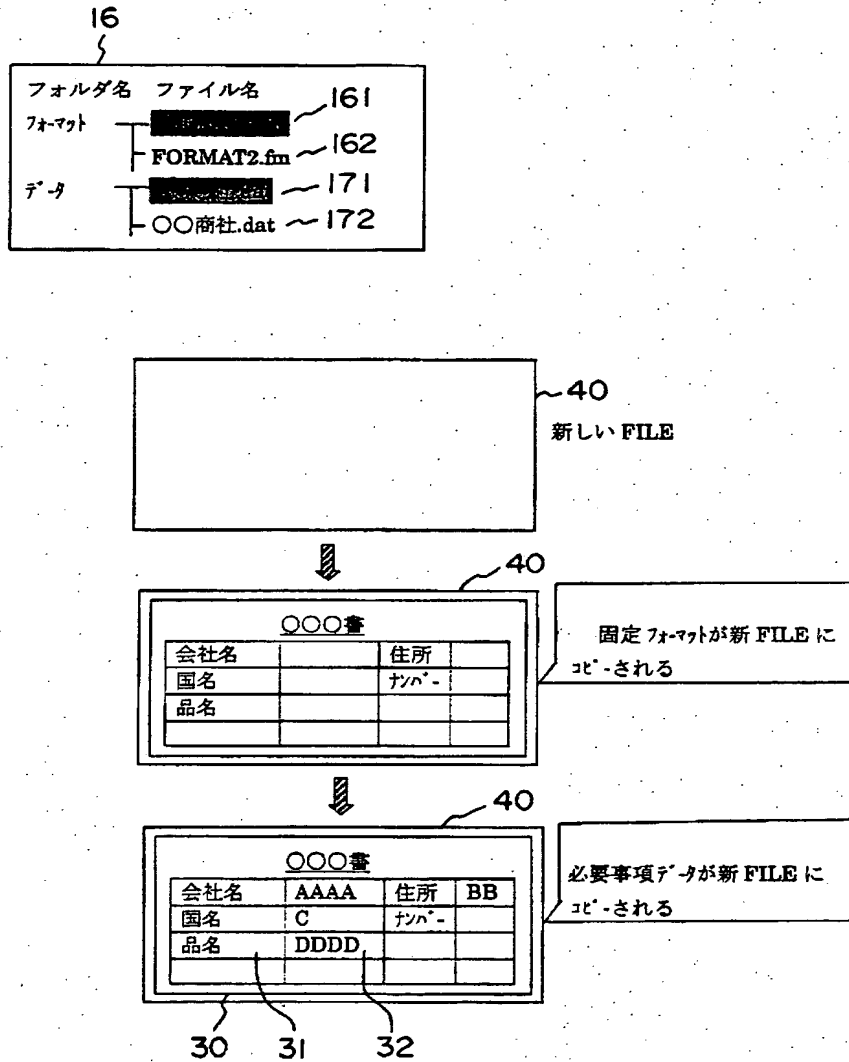
【図 5】

表形式のデータファイルの一例を示す図



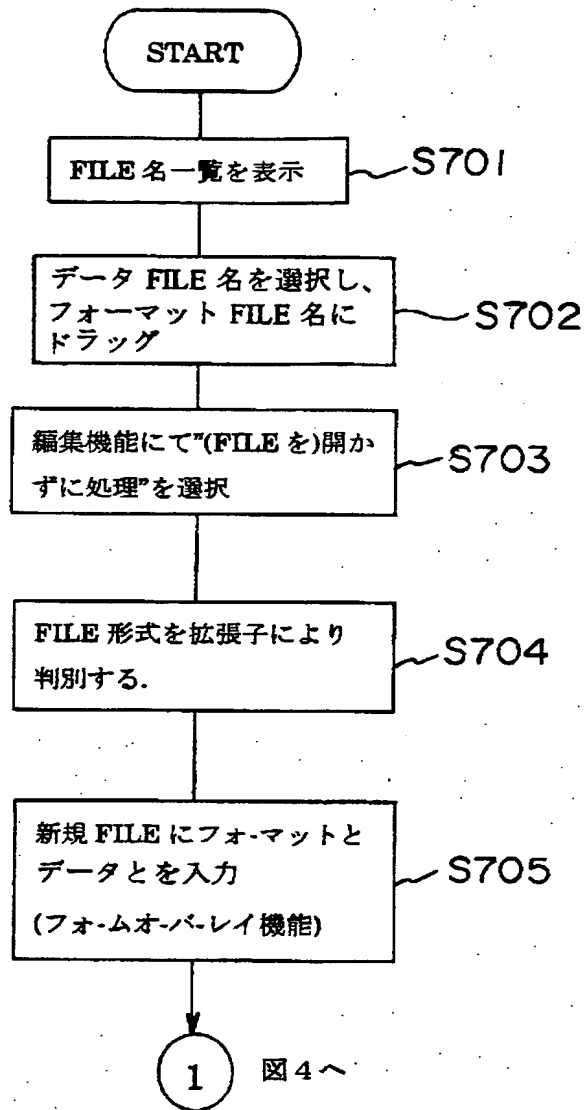
【図 6】

第2の実施の形態のデータ入力処理を説明するための図



【図 7】

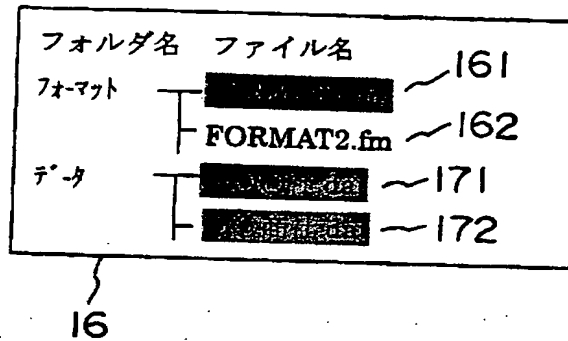
第 2 の実施の形態のデータ入力処理手順を示すフローチャート



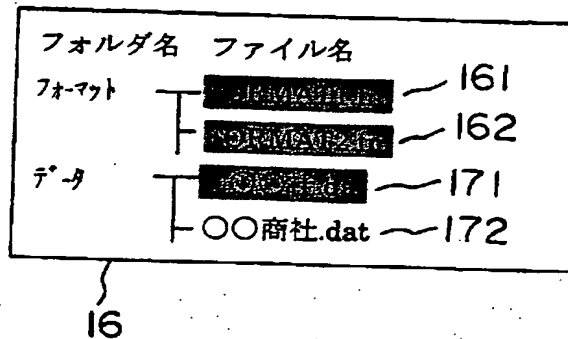
【図 8】

第 3 の実施の形態のデータ入力処理を説明するための図

(A) 複数のデータ FILE を選択したい場合

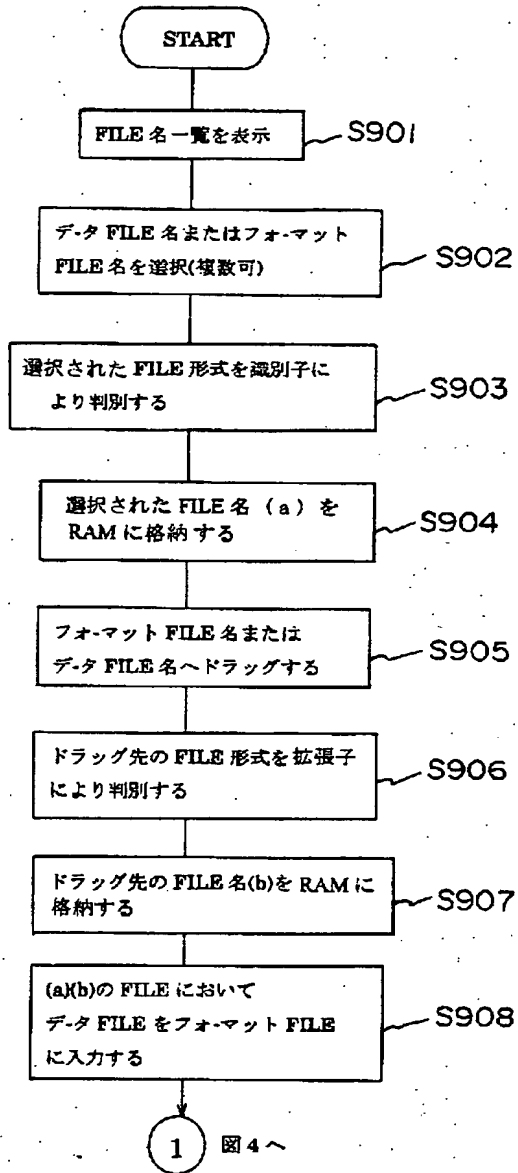


(B) 複数のフォーマット FILE を選択したい場合



【図 9】

第3の実施の形態のデータ入力処理手順を示すフローチャート



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 画面上の操作において固定フォーマットに必要事項データを簡易に入力することを可能にする。

【解決手段】 データ処理装置は、固定フォーマットを有する少なくとも1つのフォーマットファイルと、前記固定フォーマットに設定するための事項データを有する少なくとも1つのデータファイルとを表示させる表示制御手段と、前記フォーマットファイル及び前記データファイルのいずれか一方を指定させ、かつこの一方から他方を指定させる指定制御手段と、前記指定操作に応じて前記データファイルの前記事項データを前記フォーマットファイルの前記固定フォーマットに設定する設定手段とを備える。

【選択図】 図2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日	1996年 3月26日
[変更理由]	住所変更
住 所	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名	富士通株式会社